客船よもやまばなし

＜連載⑲＞

今年の夏の船旅（その３）

—東日本フェリーの「はあきゅり」の船旅—

大阪府立大学船舶工学科助教授
池　田　良　穂

東日本フェリーは 北海道の内航旅客船運航会社として最大の規模を誇るフェリー会社であり、函館～青森間の青函航路をはじめとして北海道と本州を結ぶたくさんの航路を運営している。また、利尻、礼文島や奥尻島などの離島航路もその系列会社の経営であり、昭和40年代以降の急速なフェリー化の波に乗ってもっとも急成長した船会社のひとつといってよい。実家が室蘭であったこともあり、この会社のフェリーには幾度も乗っていたが、どういうわけかここ数年は御無沙汰していた。

今年の夏の北海道旅行の帰りにどのフェリーを利用するか迷ったあげく、北海道航路で最も最新鋭のフェリーに乗ってみることにした。それが東日本フェリーの「はあきゅり」であった。この４月に三菱下関造船所で建造され、総トン数13,500トン、全長192m、旅客定員703名、車両搭載数トラック180台、乗用車100台という大型フェリーで、現在室蘭～直江津航路に就航している「へるめす」と同型船である。

夏の北海道航路はどれも超満員。ようやく８月20日に岩内を出港する「はあきゅり」に席をとることができた。

岩内は 積丹半島の西の付根にあたる所にある小さな港町である。ここには、ずいぶん以前に沿岸航路の小さな客船「かむい丸」の写真をとるために来たことがある。ここは、なかなか文化的な雰囲気の漂う町である。それは有島武郎の小説「生れ出づる悩み」のモデルとなった画家木田金次郎が生涯活躍した所であったことによっている。岩内の町を望む小高い岡の上には現代的な美術館がある。ピカソの作品を中心にした美術館ではあるが、ちょうど木田金次郎に因む作品展を行なっていた。当初は、彼の作品を中心にした美術館にしたい意向であったが、岩内町自体もおなじ企画の美術館設立の計画があったため、現在の形になったとのこと。岩内町の美術館も近々建設されるという。

出港当日、ニセコから山越えをして昼過ぎに岩内に入り、前述の美術館や木田金次郎の作品を多く所蔵している資料館などを見学した。夕方、入港してくる「はあきゅり」を港に出迎えに出かけた。同船のターミナルは、漁業を中心とする岩内港の東側に、大規模に埋立てた新しい港の一画にある。ターミナルの建物も駐車場施設もずいぶん立派なのに驚いた。夕方５時、定刻通りに入港してきた同船を写真に納めた。なかなかボリューム

感のある船容で、いかにも大型カーフェリーという感じである。

出港は深夜12時、乗船は10時から。だいぶ時間に余裕があったし、北海道最後の夜であったので、町に戻って料理屋に入り、北海道特産の「いくら」や「うに」に舌鼓をうつ。値段は安い。すっかり良い気分になって、いよいよ乗船。新しい船の船内は気持がよい。太平洋フェリーの「きそ」に比べると、旅客施設も必要最小限のもので公室設備もあまりなく、内装も質素なもので、物流を中心においた堅実な経営方針をその船内からも感じることができる。

3人用の キャビンがなかったので、特等室と2等寝台を予約しておいた。特等の船室はそれほど広くはないが、コンパクトにまとまっており、羽根蒲団のベットも快適そうである。ひととおり設備を見た後、女房と娘を特等室に残して2等寝台に向う。こちらも寝るだけなら十分である。陸上ですでに出来あがっていたから、すぐに深い眠りについた。

翌朝、ベットまで起こしてに来たくれた娘の声で目が覚めた。夕方の直江津到着までは特等室で過ごすことにする。ラウンジなどの公室施設がないので特等室を確保していると船旅が快適に過せる。大海原をみながらの大浴場は、今では日本のフェリーや客船には欠かせない施設になってしまった。サウナに入り、その後広い湯船に浸かって海を眺めるのは最高の気分だ。湯船の湯が時々船の揺れに合せて動き回る。

この船のレストランは、最上階にあり、天井の中央部が若干高いドーム型をしている。食堂の入口にある陳列棚に飾ってあるサンプルを見て注文するものを決め、自動販売機で食券を購入する。このシステムはこの会社が昔からすべての所有フェリーで取入れているやり方である。昔は百貨食堂でよくこうしたやり方があったな、とも思うが、筆者の職場である大学の学生食堂をすぐに思い浮かべてしまった。金属のプレートに乗ってきた焼肉定食もなんとなくその感じである。

キャビンで本を読んだりテレビを見たりしてい

岩内のフェリーターミナル

るうちに、船は直江津に近づいて来る。17時間の日本海の旅もそろそろ終わりである。直江津のフェリー埠頭は、港を入ってすぐのところ。荒れる冬など大丈夫なのであろうか。そんな心配が頭をかすめる。下船の時には同乗者も車で降りることとなる。一番下のデッキに積まれた車がランプウェイを通って、陸上におりるまでだいぶ時間が掛かった。その後北陸自動車道を一路大阪へ。自宅に到着した時は、深夜3時を少し回っていた。

はあきゅりのレストラン

岩内港に入港してくる東日本フェリーの「はあきゅり」